



Topic 1

1・2年合同課題研究中間報告会を実施！

11月15日に、高校1年生と2年生が合同で課題研究中間報告会を実施しました。1年生は2学期よりゼミに仮分属して具体的な探究活動をスタートさせてきました。この中間報告会ではこれまでの探究の成果を初めて上級生とゼミの担当教員に披露する場となります。上級生である2年生も1年生に負けじと素晴らしいプレゼンを披露していました。発表をする楽しさを見出した素晴らしい時間となったようです。

アドバイスを活かす

今回の交流で得られた気づきを最大限に活かして、1月31日に予定している課題



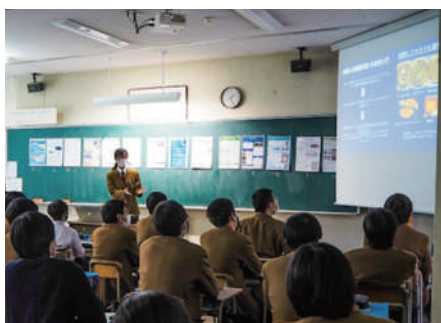
研究報告会ではより一層ブラッシュアップした課題研究の成果を披露します。早速、1年生のグローバルIでは発表用のパワーポイントの作成に着手し、発表経験を積んでいながら内容を洗練させていきます。1・2年生の今後の成長に期待大です！

生徒感想(抜粋)

2年生の発表内容が素晴らしく、目標を見つけたという1年生、1年生が想像を上回るほど素晴らしい発表で驚くと同時に、その中から学びがあったという2年生。良い刺激を受けてお互い多くを吸収できました。準備の大切さ、研究内容の深さ、相手に



伝わる発表の方法、聞く姿勢などの大切さに、体験を通じて実感が沸いたようです。「先輩たちの発表は、詳しくわかりやすく説明していてすごいなと思いました。来年、1年生に僕と同じように思っ貰えるような発表をしたいと思いました。」
「実験の目的や過程をまとめる力や、自分の研究内容やデータなどをいかに相手に伝えられるかに重点を置く必要性を改めて学ぶことができました。」



ゴミに始まり、ゴミに終わる1日

シェムリアップ郊外にあるゴミの最終処分場の見学をして、そこでの匂いや音、足から伝わる感覚など、五感をフルに使って体験をしました。

その後は現地で活動する日本人の方から各々の思いをしっかりと伝えていただきました。

そして最後の活動は小学生と一緒に市内のゴミ拾い活動です。一見、ゴミが少なそうに見える通りでもよく見るとゴミがたくさん！

体験を通して生徒一人ひとりが今日得られた気づき、学びは絶大です。



自ら問題意識を発見し、考え、行動する海外研修

カンボジアフィールドワーク



2022年12月、研修を希望した生徒30名が9日間のフィールドワークに行ってきました。高校1年生と2年生が入り混じり、互いに自由に発言することで、研修で体験した内容を深め合っていました。1日の活動のあとには全員で振り返りミーティングを実施しました。話し合いのテーマは「今日の学びは何か?」「支援をするときに大事なことは何だろうか?」など、一人ひとりが考えを出し合い、班の中で合意形成をしていくことで深い学びと気づきを得る研修となりました。



現地の高校生と異文化交流

ソムダイアウ高校の生徒80名と交流しました!レクリエーションのゲームの後、日本や岡山学芸館高等学校についての英語プレゼン発表を実施!カンボジアの高校生との対話を通して、カンボジアと日本の共通点や違いを感じることができました。

日本は、教育レベルが高い一方、受け身の学びが多いことに気づいた生徒たちも多数。客観的に自分たちを見直すこともできました。

これらの活動を通じ、渡航前にイメージしていたカンボジア像が大きく揺らいできました。



私たちにできることは

本校と関連の深いNPO法人Heart of Goldが運営するNew Child Care Centerの方(本校の元留学生)の話や、チェイ村の村人のリアルな話を聞いたり、支援について深く考えさせられる1日でした。私たち日本人からすると、村人たちの生活は決して裕福とは言えませんが、ヒアリングをしてみると「生活に困っている点は特になく、強いて挙げるならお金があまりない」とのこと。職業選択の幅が極端に少ないカンボジアで、私たちにできることはあるのでしょうか。

日本人活動家が実践する支援に学ぶ

現地日本人活動家の方々にたくさんお話を伺いました。Share The WindというNGOを立ち上げ、小学校を建設し、カンボジアの子どもたちの学びを支え、未来の夢を育む内田さんからは、支援についてのあり方考え方を伺うことができました。

また、ゴミ山ではたらく女性たちの就労支援としてバナナの茎から紙を作り、バナナペーパーブランドであるAshiを立ち上げた山勢さんからは、変化する自分を楽しむことの大切さを教わりました。



1日の学びを日々振り返る

岡山学芸館カンボジアフィールドワーク恒例、夜の振り返りミーティング。毎晩出されるディスカッションテーマに従って、約1時間半程度の振り返りを行っています。テーマは「今日の学びや気づきをひとことまでまとめてみよう!」や、「先入観を定義づけてみよう!」など。2日目の日記から、「考えることが楽しい!」「夜が楽しすぎる。自分の成長を自分で感じられる」などの感想が目立ち始めました。自分の意見を自信を持って発表できる姿に感服です。自信を持つためには、経験し、考えることを止めずにはならないと痛感しました。



子どもたちを笑顔に

コムルー村のタマイ保育園にて交流!手洗いの仕方や歯磨きの仕方をレクチャーした後、日本から持ってきた服の寄付を行いました。すっかり打ち解けて、帰り際は名残惜しそうにしました。

午後はスラム街の訪問をしてリアルなカンボジアを垣間見ることができました。

その後はトンレサップ湖に行き、東南アジア最大の淡水湖の雄大な姿を見て、水上生活をする家庭にお邪魔してヒアリング調査を行いました。自らの力で知る事の大切さを学びました。



Topic 2

課題研究連続講座を3回開催しました

本校課題研究運営部が主催し、他分野で活躍されている外部講師をお招きして希望生徒を対象に行う連続講座。1回目の「哲学サマースクール」では、ドイツ留学中の大学院生達からワークショップを開催いただき、参加者全員で哲学的思考を学びました。2回目の「空飛ぶリーダーの Team



Building」では、現役 ANA 機長の秋山英彦先生をお招きし、航空業界やチームの大切さを講義形式で学びました。3回目の「心理学から幸せを考える」では、吉備国際大学心理学部の津川秀夫教授より、幸せの定義を議論しながら学びました。貴重なお話をありがとうございました。

Topic 3

ウクライナ支援の現状を聞く

法務省職員として現地でウクライナ難民支援に携わった藤山さんからオンライン講演を実施して頂きました!難民を日本に連れていく際のエピソードなど、聞きごたえ十分な内容でした。高校2年生全体への講演の後は、興味のある生徒たちで質疑応答の後半戦がスタート。多様な質問が生徒から飛び交い、とても有意義な時間を過ごせました。



Topic 4

全国高校生フォーラム & 甲南大学リサーチフェスタ

全国高校生フォーラム2022

2022年12月18日、文部科学省・筑波大学共催の全国高校生フォーラム2022に、「国際社会ゼミ」の生徒が参加しました。タイ・フィリピン・インドネシアなども含め約120の学校が参加し、英語での発表、議論を行いました。テーマ別にグループに分かれ、本校の生徒たちはジェンダー平等を主なトピックとするグループに参加し、他校の生徒と活発な議論をしました。



甲南大学リサーチフェスタ2022

同日、甲南大学リサーチフェスタ2022に、本校から20の研究グループ、計49名の生徒が参加し、課題研究の成果発表を行いました。

午前のプレ発表では、やや緊張した面持ちだったものの、午後の本発表では堂々としたパフォーマンスを披露。生徒からは、「他校の発表も面白く、参考になった!」、「他の対外的な発表会に参加してみたい!」との声も聞かれました。

審査の結果、「地域活性化ゼミ」が最高賞である甲南大学学長賞を受賞!!「ソーシャルビジネスゼミ」が次点である審査員特別賞を受賞!その他2チーム(自然環境調査ゼミと次世代教育探求ゼミ)がアトラクティブプレゼンテーション賞を受賞しました。

本校が課題研究に全校的に取り組み始めて8年。年々、多くの生徒たちが対外的に堂々たる成果発表を行い、様々な賞を受賞していることに感無量です。

